

### 不測の事態発生時の住民への伝達について

**大学** 前回の議論を受け、大学から自治会長への連絡(第1報)は、情報共有の一環として事象の発生をまず知らせるもので、連絡を受けた自治会長に行動を求めるものではないこと、また発生した事象が進展したときは必要な情報を周辺住民に広く迅速に伝えること(第2報)を説明しました。

**有識者委員** 第1報を受けた自治会長は、自身が連絡を受けただけでいいのか、住民にも知らせてもいいのかとの難しい判断を任せられることになると思う。また、自治会長が聞いておくだけでよいものを連絡する意味があるのかとも思う。この仕組みはいかがなものだろうか。

**住民委員** 自治会の加入率は5割、よくて6~7割ぐらいであり、自治会自体が住民を代表しているとは言えない。必要なときは自治会の加入者だけでなく全員に伝わるようにしておくべきではないか。

**住民委員** 第1報から第2報までの時間が長い

と、周辺住民に不安が広がったり、他から誤った情報が伝わったりするのではないかと不安を少なくするようなやり方を考えてほしい。

**大学** 状況が判明した時点で必要な情報を迅速に伝達するよう努めたい。状況によっては事象発生の連絡を経ることなく、事象進展後の必要な情報を初報として広く伝えることもあり得ると考えています。

**大学** スピーカーを用いた連絡も検討しましたが、近くに民家が多くあるため、うるさいと許可をいただけないのではないかと大学内部では思っています。

**住民委員** 非常事態での連絡なので、このスピーカーについてうるさいというクレームはあまり出ないのではないかと安心につながると思うので、検討してほしい。

**大学** いただいた意見を踏まえさらに検討します。

**住民委員** 公募委員の募集は考えていないのか。

**大学** 新たに委員を公募することは考えていませんが、例えば、これまでこの協議会の議論に参加し、たくさんのご意見をいただき、経緯をよくご理解されている方に「その他、三者連絡協議会が必要と認めた者」として入っていただくことを考えています。また、新たな検討課題などが出てきたときには、その専門の方に、臨時の委員やアドバイザーとして意見を頂くようなことを想定しています。

### 新たな地域とのコミュニケーション組織の検討について

**大学** 頂いてきた意見等を参考に、新しい地域連絡協議会の方針案を提示して検討を進めています。これまでは拠点の整備に関連する情報の提供及び安全・安心の確保等について協議してきましたが新しい地域連絡協議会では、施設の運用状況の情報共有、施設の安全・適切な管理等に関する報告や意見交換などを行うこととしています。委員は現在の地域連絡協議会の構成を踏まえつつ、地域との継続的な情報共有と施設の安全を確認する場となるような委員構成を考えています。

**有識者委員** 新たな協議会からステージが変わり、安全対策および災害時対策に集約される可能性がある。そのため、災害防災分野の専門

家を全国レベルで見つけて、会議に参加してもらい、実情を常時知った上で考えてもらうことが必要ではないか。

### 安全管理に向けた施設運用に関する事項について

**大学** 感染症法に基づいて策定する「長崎大学高度感染症研究センター実験棟生物災害等防止安全管理規則」(以下「安全管理規則」という。)について、地域連絡協議会等の意見を踏まえた検討案を提示・協議し整理を進めています。

**大学** 安全管理について、これまで3年くらい具体的な議論をさせていただきました。諸法令や大学として作る文書などを考慮して安全管理規則をこれからまとめていくこととしています。この安全管理規則の下に「安全管理基準」という少し詳しい内容の文書をさらに設けていくことになります。

**住民委員** 従来から、部分的にでもいいから提示してほしいとお願いしていたので、今回説明いただき本当にありがたい。細かいところを網羅して



くださっているの、今議論をしている私たちだけでなく、将来にもつながっていくと思いとて安心した。

**住民委員** 住民の要望や不安に寄り添っていただいた内容が織り込まれている。病原体等を取り扱う期間や取り扱い終了後の一定期間管理をすることや、情報公開の内容も織り込んでいただいたので非常にうれしい。

**住民委員** 病原体等の搬出、搬入については、どのような移動なのかを加えたほうがいいのではないかと。

**大学** この安全管理規則の下に安全管理基準を作成しているところであり、実験室外に持ち出す場合はきちんと滅菌処理をした上で搬出するということを記載します。

**住民委員** 安全管理規則の中に出てくる学長とセンター長、監視委員会と管理委員会などの関係が文章では分かりづらい。次回、図式などで示してほしい。



### 地域連絡協議会とは

高度安全実験(BSL-4)施設の検討状況に関する情報を地域の皆様へお伝えし、議論を行っていくために、長崎県、長崎市及び長崎大学で構成する三者連絡協議会に置かれたものです。

### BSLとは

バイオセーフティーレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方から BSL-4~BSL-1 に分類されています。それに合わせて、実験施設も、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方から BSL-4~BSL-1 に分類されています。感染すると、有効な治療法がなく、また予防法もない病原体(エボラウイルスやマールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設が BSL-4 施設です。